



第36回全国 「みどりの愛護」のつどい

プロローグ

みどりとの共生 千葉から松戸…そして未来へ

「みどり」と人との関わりは、時代を超えて育まれてきました。
豊かな自然に恵まれた千葉県、そして都市化の進む中でもみどりと共に歩むまち・松戸。
未来への思いを込めて、物語と音楽で“みどりとの共生”を描き出します。

第1章 千葉のみどりと人の営み

Part1 「里山と共に歩む鼓動」

かつて人々が共に生きてきた里山。
人々とのつながりが薄れゆく今、和太鼓の響きが両者を再びつなぎます。
(和太鼓) TAWOO

Part2 「竹の響きに宿る命」

暮らしの中から遠ざかっていた竹に、新たな命を。
竹楽器の音が、人と自然の関係を静かに
問いかけます。
(竹楽器) 房総楽竹団



第2章 都市とみどりが調和するまち・松戸

都市化が進む中でも、四季の移ろいや公園のみどり、そして都市のみどりと
寄り添いながら暮らすまち・松戸。
音楽と映像が、そのやすらぎある風景を彩ります。
(ピアノ) 伊藤壽英 (クラリネット) 鈴木結佳 (ヴァイオリン) 小嶋沙織



第3章 広がるみどりの和



市民の手で育てられた花々、学生の歌声が響くステージ。
人とみどりが手を取り合い、未来へと歩む意志を歌に
のせて伝えます。
(合唱) 松戸市立松戸高等学校・松戸市立第四中学校 合唱部



ウェルカム演奏・プロローグ演奏

みどりのまちに響く記憶の旋律

確かな技術と情熱で紡がれる、千葉の高校生たちによる温かな音色で
開幕します。
(千葉県立松戸六実高等学校吹奏楽部)

